

## 第6学年 外国語活動学習指導案

に組 男子19名 女子20名 計39名

指導者 JTE 高 味 淳

ALT Christopher Sneller

### 1 単 元 “We are good friends!” ～届け！1年生へのメッセージ～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「料理を作ろう」や「オリジナル時間割を作ろう」の活動を通して、自分で作ったものに思いを込めながら、伝え合う楽しさや伝え合うよさを味わうようになってきている。また、これまでに学んだ英語を生かしながら、ALTやJTE、友達と積極的にコミュニケーションを図ることを通して、もっと様々な英語を知り、自信をもって使ってみたいと願うようになってきている。さらに、「ハローワールド」の学習を通して、外国の言語や文化について、日本の言語や文化と比べたり、他教科等で学んだことを生かし調べたりして、もっと外国の様々なことについて知りたい、学びたいと願うようになってきている。

そこで、本単元では、英語を用いた日本の昔話や外国の物語に触れることを通して、言語や文化についてより興味をもたせるようにしたい。また、日本の昔話を英語で劇にすることを通して、互いのコミュニケーションの在り方（態度、内容、方法）を話し合うことで見直し、互いのコミュニケーションを工夫することで、思いを伝えることのよさを実感させていきたい。さらには、友達と協力して活動を成し遂げることで、活動への達成感や満足感を味わい、より相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を高めていきたい。

この学習は、外国や身近な友達と自分の生活習慣を比べながら、時間や生活を表す英語を使って、ゲーム活動や“Show and Tell”等の活動を行う「生活習慣を伝えよう」へと発展するものである。

##### (2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、幼少期から慣れ親しんでいる日本の昔話を英語で扱うことは、英語が分からなくても内容を推測できることで、安心感をもてると共に、これまで学んだことを生かして、友達と協力して楽しく活動できそうだという期待感をもてるものとして、魅力があると考えられる。そのため、日本の昔話を英語にして扱う活動を設定することは、そこに必要な英語を使い、相手と積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するのに適している。また、日本の昔話を英語で扱うことで、言葉の面白さや豊かさに気付いたり、物語のよさにも気付いたりすることにも適している。

このような昔話を話題にして、そこに必要な英語を表現する楽しさを味わったり、物語や昔話に関する言語や文化への体験的な理解を深めたりするために、ゲーム活動や劇作りを重視していきたい。そして、相手に積極的に関わったり、互いに教え合ったりして、さらにコミュニケーションを図っていききたいという願いが連続・発展していくように活動を展開していきたい。

具体的にはまず、新教材“Hi, friends!”（以下、新教材）Lesson 7の「桃太郎」を英語で読み聞かせ、教材に対する興味・関心を喚起させる。そして、子どもたちが主体的に友達と協力し、相手意識をもって活動に取り組めるよう、入学したばかりの1年生に劇を見せるという活動を設定する。また、リズムチャンツやゲーム活動を通して、劇に必要な英語に慣れ親しませていく。

次に、これまで学んだことを生かしながら、「どのようにすれば、自分の表現したいことが1年生に伝わるか。」「どのようにすれば、1年生が興味をもって見るか。」等、グループで話し合い、コミュニケーションの在り方を考えていけるよう、「桃太郎」の劇作りに取り組ませる。

さらに、自分たちで作った劇を1年生に見せることで、「自分でも英語が使えるんだ。」という自信をもたせたり、1年生が、“6年生は英語を使った表現が上手だ。”とあこがれをもったことに気付かせたりして、これまでの自分の変容を振り返らせ、活動への達成感や満足感を味わわせていく。

このような学習を通して、互いのよさを認め、協調することへの喜びを味わいながら、相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を高めることができるものと考えられる。

(3) 子どもの実態（対象者：6年に組児童 38名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示）

<p>① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について</p> <p>○ 外国の人と交流するのは好きか。          &lt;はい(32)&gt;          ・知らないことが分かるから(17) ・学んだ英語が使えるから(8)          ・楽しいから(6) ・友達が増えるから(4)          &lt;いいえ(6)&gt;          ・英語がよく分からなくて興味がわかないから(5)          ・自信がなくてこわいから(1)</p>	<p>② 外国語への慣れ親しみについて</p> <p>○ 「桃太郎」の劇に必要な英語を言えるか。          ・I'm Momotaro. (26) ・I'm happy. (28) I'm strong. (13)          ・Look. (14) ・Let's go to Onigashima. (19)</p>
<p>③ 言語や文化に関する気付きについて</p> <p>○ 外国語活動の中で、言葉や文化の面白さに気付いたか。          &lt;はい(33)&gt;          ・生活習慣等の相違点や共通点(18) ・日本語との発音、表記等の違い(13) ・表現の仕方の違い(2)          &lt;いいえ(5)&gt;</p>	<p>④ 学習・生活経験に関する内容について</p> <p>ア もう一度やってみたい学習内容は何か。          ・「料理を作ろう」(23) ・「ハロウィンをしよう」(15)          ・「オリジナル時間割を作ろう」(9) ・「買い物ごっこ」(7)          ・劇(Skit)作り(7)</p> <p>イ 思いを伝えるために、大切なことは何か。          ・様々な方法(ジェスチャー、絵に描く等)で伝える(22)          ・気持ちを込める(6) ・分かりやすく言う(5)          ・はっきり言う(4) ・自分から話しかける(3)</p> <p>ウ 既習内容を生かしたときの気持ちはどうか。          ・とても嬉しい(25)(達成感、つながりの発見等から)          ・もっと生かせないか(6)(興味、満足感の追求から)          ・気持ちが楽になる(5)(すぐ理解ができることから)</p>

本学級の子どもたちは、外国の人との交流について大部分が好意的である。しかしながら、英語への自信のなさ等から交流を苦手とする子どももいる。英語が分からないと交流することは難しいと考えていることが原因と捉える。(①)

劇に必要な英語の慣れ親しみについては、既習英語について尋ねたが、簡単な英語でも答えられない子どもがやや多く見られた。英語を発話する際、子どもが意識をもって使用する場面に会う機会が少ないのではないかと考える。(②)

言語や文化に関する気付きに関しては大部分の子どもが気付いているが、5名の子どもがこれまでの学習で気付きを得ていないと答えている。言語や文化に関する気付きへの発問や指示、教材等、教師の働きかけが不十分であることが原因と捉える。(③)

学習・生活経験に関する内容については、友達と協力して活動したり、自分の考えを生かしたりできるような内容を好んでいる。

この期の子どもは、単に楽しい内容よりも、達成感や満足感を味わうことのできる内容を好むと考える。(④-ア) また、自分の思いを伝えるために、それぞれの子どもが大切なことを捉えているものの、相手意識をもった内容にまで気付いている子どもは少ないと考える。(④-イ) さらに、既習内容を生かしたときの気持ちについては、多くの子どもが達成感や満足感、安心感等を味わっている。このことから、他教科等との関連を図る学びの総合化は、活動をより充実させるために、子どもたちにとって重要なものであり、有効なものであると考える。(④-ウ)

(4) 指導上の留意点

- ① 『「桃太郎」の劇を考えよう。』では、言語や文化の関する気付きを促すために、新教材を使って、外国の物語の言い方等についてのクイズを行い、その面白さに気付かせていく。また、劇を発表する際、自信をもって英語が発話できるよう、これまでの学習で学んだ英語を多く用いたり、ゲーム活動等に取り組みせたりして、その語彙や表現に慣れ親しませていく。
- ② 『「桃太郎」の劇を作ろう。』では、1年生という相手に思いを伝えるために、どのようなコミュニケーションの在り方が適しているか考えさせるよう、ワークシートや付箋を活用させ、互いにコミュニケーションの在り方を見直させていく。その際、学びのよさを味わわせるために、これまでの他教科等の学び方等を活用するような働きかけも行っていく。
- ③ 『「桃太郎」の劇を発表しよう。』では、これまでの学習の成果を味わわせるために、クラス全体で1年生に劇を見せるようにする。また、自分なりの方法で相手に思いを伝えられたことのよさを実感させるために、これまでの自分と比較させながら、振り返りカードにこれまでの学びを書かせるようにする。さらに、活動全体を通して、発問や指示を工夫し、コミュニケーションの在り方を考えさせていくことで、互いのよさを認め、協調する喜びを実感として味わわせていく。

### 3 目 標

- (1) 「これまでに学んだ英語を生かして、周りの人に思いを伝えたい。」という願いのもと、ALTやJTE、友達と協力しながら、積極的にゲーム活動や劇作り等に取り組む。
- (2) ALTやJTE、友達とのコミュニケーションを通して、外国や日本の物語に興味をもったり、物語で使う英語の面白さや豊かさに気付いたりする。
- (3) リズムチャンツやゲーム活動等を通して、物語に必要な英語の音声や表現に慣れ親しむ。
- (4) 目的や相手に応じたコミュニケーションを行うために、互いに話し合い、協力しながらコミュニケーションの在り方を工夫する。

### 4 指導計画 (全6時間)

楽しさの深まり	時間	過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
○ 外国や日本の物語を知ったり、物語に関する英語を発話したりする楽しさ	1	意欲をもつ	<b>Let's Play the Meeting Skit.</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語当てクイズをする。</li> <li>・ 単元のめあてを話し合う。</li> <li>・ 「桃太郎」を英語で聞く。</li> <li>・ リズムチャンツをする。</li> <li>・ フリーズゲームをする。</li> <li>・ 場面の担当グループを決める。</li> </ul>	○ 外国や日本の物語を扱う単元であることを意識させるために、新教材 p.26 の物語当てクイズをする。
○ 物語に関する英語を使ったゲームを友達とする楽しさ	2	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「桃太郎」を英語で聞く。</li> <li>・ リズムチャンツをする。</li> <li>・ 伝言ゲームをする。</li> <li>・ 各グループで役割を決める。</li> <li>・ グループで物語を作成する。</li> </ul>	○ “brave”等の英語に慣れ親しませるために、チャンツや劇に必要な英語やジェスチャーを使った伝言ゲーム等を行う。
○ これまでの学びを生かす楽しさ	3	挑戦する・広げる	<b>Let's Make Skits.</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで台詞等を作成する。</li> <li>・ グループで練習する。</li> </ul>	○ 子どもが意欲的に劇作りに取り組めるように、自分たちで物語の内容を膨らませるようにする。
○ コミュニケーションの在り方を見直してこうとする楽しさ	4 (本時)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劇に必要な英語を発話する。</li> <li>・ ジェスチャークイズをする。</li> <li>・ 劇作りをする。</li> <li>・ 他グループと劇を紹介し合う。</li> <li>・ これまでの活動を振り返る。</li> </ul>	○ 自分たちのコミュニケーションの在り方を考えさせるために、他のグループに劇を見てもらい、改善点等を教え合うようにさせる。
○ 劇を友達と協力して作り、かわりを深める楽しさ	5	振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作った劇を修正したり、新たな表現を付け加えたりする。</li> <li>・ 簡単な道具を作ったり、学級全体でリハーサルをしたりする。</li> </ul>	○ これまでのコミュニケーションとの違いを明確にさせるために、ワークシートを活用し、振り返らせる。
○ 思いが伝わるよさを実感したり学びのよさを振り返ったりする楽しさ	6		<b>Let's Do Skits.</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劇の練習を簡単にする。</li> <li>・ 1年生に劇を見せる。</li> <li>・ 互いに感想を発表し合う。</li> <li>・ これまでの学習を振り返る。</li> </ul>	○ 思いを伝えることのよさを実感させるために、1年生に劇を見た感想を発表させたり、活動について称賛したりする。



友達と話し合いながら、1年生にも伝わる表現ができてよかったな。またやってみたいな。

## 5 本 時 (4 / 6)

### (1) 目 標

ア 「桃太郎」に出てくる英語に慣れ親しみながら、ALTやJTE、友達と協力して積極的に劇作りに取り組む。

イ 「桃太郎」の劇を作る際に必要な英語が分からないときに、ジェスチャーや知っている英語等を使ってALTや友達に尋ねたり、相手や状況に応じた適切な英語を用いることを考えたりする等、よりよいコミュニケーションを図ろうとする。

### (2) 本時の展開に当たって

○ 「桃太郎」を劇にして1年生に見せるために、どのようにすれば、1年生に分かりやすく楽しく伝わるか、話し合いをしながらグループで考えさせる。また、考えた劇がよりよく相手に伝わるかどうか、他のグループに見せることで、自分たちの劇について振り返らせる。

### (3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	主 な 語 彙 や 表 現	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
意 欲 を も つ	1 Greeting 2 Communication Time 3 Meeting today's target Let's Make Skits. ・ 1年生に楽しく、そして分かりやすく伝わるような劇にしよう。	brave, strong, good friends, stay here, take care  【Gesture Quiz 例】 1 ALTが、お腹がすいた様子を表すジェスチャーをする。 2 子どもは“hungry”と答えるが、ALTはもう一度黙って同じジェスチャーをする。 3 本当にお腹がすいた様に表情豊かに答えるまで繰り返す。 4 “Good!” “Nice!” 等とほめる。	5	○ 前時の活動を想起させるために、1年生に「桃太郎」の劇を英語を使って発表することや、これまでの活動を確認する。その際、1年生にどのような劇を見せるのか考えさせ、学習のめあてを設定させる。
	つかむ	4 Practice 5 Gesture Quiz   もっと力を込めた言い方がいいかな。	8	○ 劇に必要な英語に慣れ親しむために、ALTと発話する。 ○ 言葉やジェスチャーの豊かさに気付かせるために、ALTがどんな英語を言おうとしているか、また、状況によってどんな表情やジェスチャーがふさわしいか考えさせるゲーム活動を取り入れる。
挑 戦 す る ・ 広 げ る	6 Making Skits  この場面ではどのように言えばいいかな？	【話し合いの例】 C1: 「お供します。」って英語で何て言うのかな？ C2: “O.K!” でいいんじゃない？ C3: いいね。“O.K.” T: 「お供します。」という時、本当にそんな言い方するかな？ C3: “O.K.” T: いいね！今みたいに表情や口調も工夫した方が思いが伝わると思うよ。	27	○ 1年生によりよく思いを伝えるために、どんなことを工夫すればよいか考えさせ、劇作りに生かすようにさせる。 例) ジェスチャーを入れて、表情を豊かに、場に応じた声量で 等
	振 り 返 る	7 Presentation ・ 5班は、表現豊かにおにが泣いてたよ。私の班でも使ってみよう。		
		8 Reflection Time ・ もっとオーバーにしたら、1年生が喜ぶかもね。 9 Ending  早く1年生に劇を見せたいです。 1年生のお手本になりたいです。	5	○ 思いが伝わるよさを実感させるために、劇を見る側は“Good!”等と反応を示すようにさせる。 ○ 次の活動に生かすために、互いの発表を基に、自分たちの劇について見直しをさせる。 ○ 本時における成長に気付かせるために、考えたことや学んだこと等を発表させ、称賛する。